



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名） 執行役員 経営企画室 室長 （氏名） 京極 敦

TEL 03-5318-7530

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

（1）連結経営成績（累計） （％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	55,885	2.8	3,405	△3.5	3,444	△3.2	2,393	△5.1
29年3月期第3四半期	54,376	7.7	3,527	24.5	3,559	26.6	2,521	15.2

（注）包括利益30年3月期第3四半期 2,782百万円（5.5%） 29年3月期第3四半期 2,638百万円（27.9%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	145.24	—
29年3月期第3四半期	177.45	—

### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	62,472	30,563	48.9
29年3月期	51,442	28,456	55.3

（参考）自己資本 30年3月期第3四半期 30,563百万円 29年3月期 28,456百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	14.00	—	23.00	37.00
30年3月期	—	18.00	—	—	—
30年3月期（予想）	—	—	—	19.00	37.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	72,700	2.7	4,080	2.3	4,100	2.1	2,870	0.1	174.20

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	16,476,000株	29年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	352株	29年3月期	273株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	16,475,706株	29年3月期3Q	14,210,769株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日）におけるわが国の経済は、米国や中国をはじめとした世界経済の回復により輸出が好調であること、また人手不足を背景に企業の省力化投資が活発化していることにより、企業業績は回復基調が続いております。しかしながら、雇用情勢の改善が進んでいるものの、実質賃金は伸び悩んでいることから、個人消費の回復の足取りは重く、景気の持ち直しの動きは今後も緩やかにとどまるものと思われま

す。このような事業環境の中、当社グループにおきましては、「輝く未来のために」という目標を掲げ、平成28年3月期より進めております中期経営計画『KENKO Five Code 2015-2017』が最終年度に入りました。この中期経営計画で示しております当社グループの「5つの指針」は次のとおりです。

- (I) Globalization（世界的拡大）
- (II) Innovation（革新）
- (III) Best practice（最良実施）
- (IV) Knowledge management（知識管理）
- (V) Communication(Branding)（コミュニケーション（ブランド育成））

以上の5つの指針に基づいた取り組みの成果は次のとおりであります。

◇毎年秋に開催しております当社グループ総合フェア『KENKO ACTION 2017 変える変わる』を東京・大阪で開催しました。今回のフェアのタイトルには、お客様が抱える様々な課題解決に向けた「変えるヒント」「変わるポイント」を提案するという思いを込めております。

「変貌するサラダの未来を描く」と題した「Foodies' salad」コーナーにおいては、食セレブ派、いそがし派など消費者を7つのタイプに分類し、タイプ別の商品・メニューを提案しました。Foodie（フーディー）とは、「食べ物に関心の高い人・食べるのが大好きな人」のことです。

◇当社が業界で初めて開発しました、ロングライフサラダのブランド「FDF®（ファッションデリカフーズ®）」は平成29年で発売40周年を迎えました。平成29年11月には、当社が蓄積してきました開発力やノウハウを活かして、3つのこだわり（①原料：野菜はすべて国産を使用、②配合：化学調味料やpH調整剤不使用、③製法：素材の美味しさを最大限に引き出す製法）により、今までのサラダから更に洗練させた新たなるベーシックサラダ『ケンコーリファイン™』を発売しました。

当第3四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

#### ①売上高

売上高につきましては、サラダ・総菜類、タマゴ加工品、マヨネーズ・ドレッシング類といずれの商材も伸ばすことができました。サラダ・総菜類では和惣菜の伸びが大きく、タマゴ加工品では厚焼き卵、また、マヨネーズ・ドレッシング類では、ファストフード向けの商品が好調であり、売上を伸ばすことができました。

#### ②利益

利益につきましては、平成28年8月の北海道における台風被害により、当社でも馬鈴薯をはじめとした原料に起因するコスト上昇要因がありましたが、平成29年秋に収穫されました北海道産新芋の使用が始まり、原料調達コストや生産効率の改善等が進んでおります。また、売上高増加に伴う工場の操業度効果をはじめとした原価低減も進めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間における連結売上高は55,885百万円（前年同四半期比1,509百万円の増加、2.8%増）、連結営業利益は3,405百万円（前年同四半期比122百万円の減少、3.5%減）、連結経常利益は3,444百万円（前年同四半期比115百万円の減少、3.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,393百万円（前年同四半期比128百万円の減少、5.1%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

#### （調味料・加工食品事業）

サラダ・総菜類につきましては、コンビニエンスストアや外食向けに主力商品のポテトサラダが伸長しました。和惣菜では、当社ブランドの「和彩万菜®」シリーズが好調に推移し、また、きんぴらごぼうがお弁当用に、筑前煮が外食向けに採用されました。更に、オニオンを使用した商品の増加や外食向けに春雨サラダが好調に推移し、売上高増加に寄与しました。

タマゴ加工品につきましては、サンドイッチ用や総菜パン用のタマゴサラダ、お弁当用の厚焼き卵、麺用の錦糸卵がコンビニエンスストアを中心に新規採用され増加しました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、製パン向けに10kg形態のマヨネーズが新規採用されました。ドレッシングではコンビニエンスストア向けの小袋形態の商品が前年を上回り推移しました。また、ファストフード向けのナゲットソース、500ml形態のドレッシングや輸出向けのマヨネーズ、ドレッシングも伸長しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は46,397百万円（前年同四半期比1,332百万円の増加、3.0%増）、セグメント利益は2,812百万円（前年同四半期比126百万円の増加、4.7%増）となりました。

## (総菜関連事業等)

食品スーパー向けにシーフード（イカ、カニ、明太子他）を使用した商品やパスタ商品が新規採用されました。また、クリスマス用のオードブルも売上高増加に寄与しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は8,510百万円（前年同四半期比134百万円の増加、1.6%増）、馬鈴薯をはじめとした野菜類の価格高騰の影響等により、セグメント利益は605百万円（前年同四半期比277百万円の減少、31.4%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、62,472百万円（前連結会計年度比11,030百万円の増加、21.4%増）となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が3,471百万円増加、建設仮勘定が7,786百万円増加したこと等によるものであります。

## (負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、31,909百万円（前連結会計年度比8,923百万円の増加、38.8%増）となりました。これは、主に電子記録債務が1,008百万円増加、長期借入金が5,920百万円増加したこと等によるものであります。

## (純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、30,563百万円（前連結会計年度比2,106百万円の増加、7.4%増）となりました。

## (自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、48.9%（前連結会計年度比6.4ポイント減）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月12日に公表した通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（平成30年2月9日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,779	14,700
受取手形及び売掛金	11,436	14,908
商品及び製品	1,881	1,722
仕掛品	17	10
原材料及び貯蔵品	919	1,219
繰延税金資産	350	341
その他	813	236
貸倒引当金	△2	△0
流動資産合計	29,196	33,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,461	5,156
機械装置及び運搬具(純額)	6,653	5,986
土地	5,968	5,968
建設仮勘定	8	7,794
その他(純額)	377	345
有形固定資産合計	18,469	25,250
無形固定資産		
無形固定資産合計	268	215
投資その他の資産		
繰延税金資産	398	290
その他	3,148	3,613
貸倒引当金	△40	△36
投資その他の資産合計	3,506	3,867
固定資産合計	22,245	29,333
資産合計	51,442	62,472

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,751	10,756
電子記録債務	—	1,008
1年内返済予定の長期借入金	920	1,180
未払法人税等	909	563
その他の引当金	460	409
その他	5,445	5,912
流動負債合計	16,487	19,830
固定負債		
長期借入金	1,489	7,410
退職給付に係る負債	443	400
その他の引当金	934	961
その他	3,630	3,307
固定負債合計	6,498	12,078
負債合計	22,985	31,909
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	16,688	18,405
自己株式	△0	△0
株主資本合計	27,803	29,520
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	798	1,152
為替換算調整勘定	9	2
退職給付に係る調整累計額	△155	△112
その他の包括利益累計額合計	652	1,042
純資産合計	28,456	30,563
負債純資産合計	51,442	62,472



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	54,376	55,885
売上原価	40,035	41,309
売上総利益	14,341	14,576
販売費及び一般管理費	10,813	11,171
営業利益	3,527	3,405
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	30	31
その他	79	76
営業外収益合計	110	107
営業外費用		
支払利息	41	50
持分法による投資損失	21	12
その他	16	7
営業外費用合計	78	69
経常利益	3,559	3,444
特別利益		
補助金収入	21	61
固定資産受贈益	7	—
固定資産除却引当金戻入額	30	—
その他	0	0
特別利益合計	59	61
特別損失		
固定資産除却損	13	5
減損損失	7	1
その他	5	—
特別損失合計	26	7
税金等調整前四半期純利益	3,592	3,498
法人税、住民税及び事業税	1,066	1,127
法人税等調整額	3	△22
法人税等合計	1,070	1,105
四半期純利益	2,521	2,393
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,521	2,393

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	2,521	2,393
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	85	354
退職給付に係る調整額	58	43
持分法適用会社に対する持分相当額	△27	△7
その他の包括利益合計	116	389
四半期包括利益	2,638	2,782
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,638	2,782

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	45,064	8,376	53,441	935	54,376	—	54,376
セグメント間の 内部売上高又は振替高	481	6,441	6,922	—	6,922	△6,922	—
計	45,545	14,818	60,364	935	61,299	△6,922	54,376
セグメント利益又は損失(△)	2,685	883	3,569	△14	3,555	4	3,559

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額4百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	46,397	8,510	54,907	978	55,885	—	55,885
セグメント間の 内部売上高又は振替高	484	6,572	7,056	—	7,056	△7,056	—
計	46,881	15,083	61,964	978	62,942	△7,056	55,885
セグメント利益又は損失(△)	2,812	605	3,418	△13	3,404	39	3,444

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額39百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。